

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽北中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 153 人

② 数学 152 人

③ 理科 151 人

5 留意事項

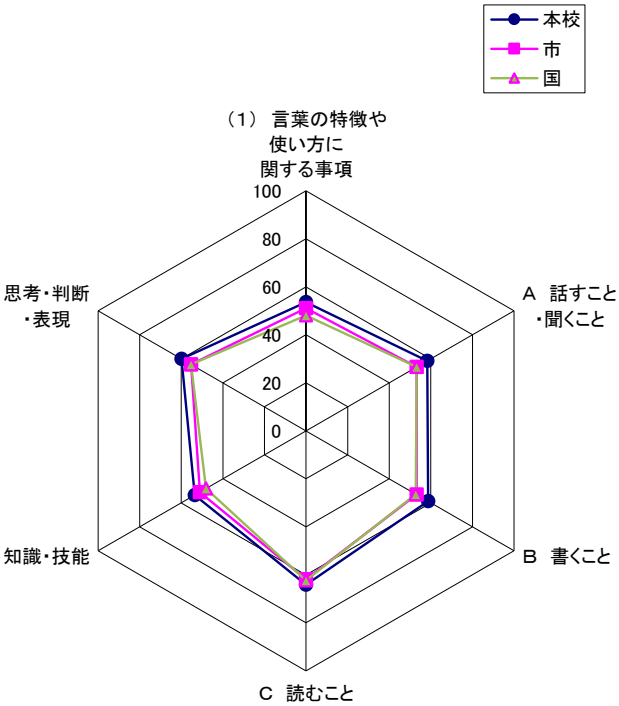
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽北中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	53.6	51.1	48.1
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	58.3	53.2	53.2
	B 書くこと	58.7	53.1	52.8
	C 読むこと	64.1	61.8	62.3
観点	知識・技能	53.6	51.1	48.1
	思考・判断・表現	59.9	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

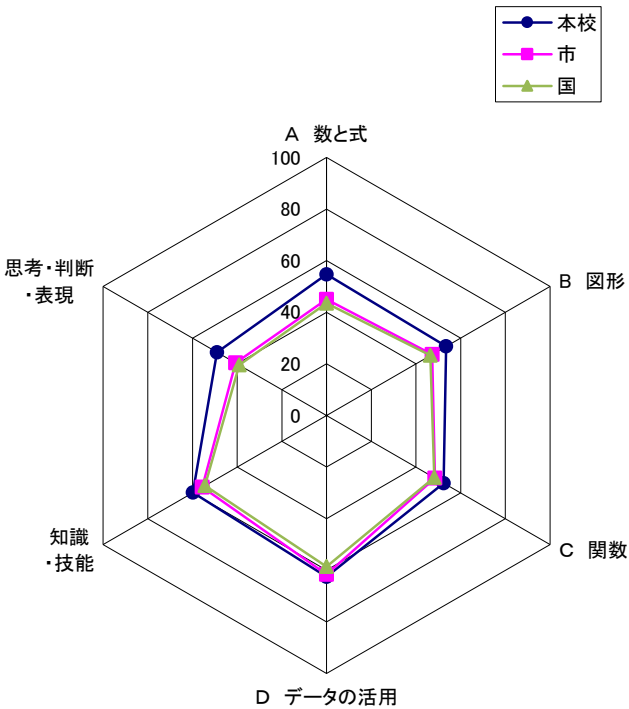
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	正答率は、市平均を2.5ポイント、全国平均を5.5ポイント上回った。 ○事象や行為を表す語彙について理解しているかの問題は、全国平均より7ポイント高く、文脈に即して漢字を正しく使うことができるかの問題は、無回答率が0%であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・語彙や漢字を適切に使い、正誤だけでなく、適否や美醜についても考えて使える力を育む。そのために、適宜、語彙に着目する機会を設け、言語感覚を磨いていく。
(2) 情報の扱いに関する事項		
(3) 我が国の言語文化に関する事項		
A 話すこと・聞くこと	正答率は、市平均、全国平均を5.1ポイント上回った。 ○資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫することができるかの問題は、全国平均より9.5ポイント高く、無回答率も全国に比べて低かった。 ●自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかの問題の無回答率が1.3%に及び、全国と比較しても高かった。	・自分の考えが分かりやすく相手に伝わるかを吟味できるように、他の生徒の説明の仕方や既習事項を振り返り、学び合いの機会を多く設定していく。また、学習活動のまとめや振り返りの際に、身に付いた技能や知識を言語化することで、学習内容を定着させていく。
B 書くこと	正答率は、市平均を5.6ポイント、全国平均を5.9ポイント上回った。 ○書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考える問題は、9.9ポイント高かった。	・普段の生活の中で、文章を書く機会を設ける。相手意識や目的意識を持ち、自分の考えが明確に伝わるように書くように、手立てを示しながら指導していく。
C 読むこと	正答率は、市平均を2.3ポイント、全国平均を1.8ポイント上回った。 ○文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかの問題では、全国平均に比べて、3.8ポイント高かった。	・様々なジャンルの文章を読み、構成や展開について、図や表などを使ってまとめたり、伝えたりする活動を通して、その文章の特徴を叙述を根拠を明確にして考える活動を設けていく。

宇都宮市立陽北中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	54.7	45.0	43.5
	B 図形	53.5	47.2	46.5
	C 関数	52.4	48.5	48.2
	D データの活用	62.5	61.6	58.6
観点	知識・技能	59.8	55.6	54.4
	思考・判断・表現	49.0	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	正答率は、市平均を9.7ポイント、全国平均を11.2ポイント上回った。 ○数と式の分野の全ての問題で、市と全国平均を上回っており、良好な結果が見られた。 ○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題では、全国平均を17.3ポイント上回った。また、素数の意味を理解しているかどうかをみる問題では、全国平均を16.9ポイント上回った。	・計算精度の向上(計算過程でのまちがえを減らすための綿密な演習と、具体的事例を通じた手順の明確化)、式の変形に関する論理的理解の促進に重点をおくとともに、日常生活への応用可能性の提示の機会をできるだけ多く設定していく。また、図・表やグラフを活用して抽象概念を具体的に説明させることで、生徒の理解をより深めるとともに、これらの取り組みにより、基礎力の向上と応用力の強化を図っていく。
B 図形	正答率は、市平均を6.3ポイント、全国平均を7.0ポイント上回った。 ○図形の分野の全ての問題で、全国平均を上回っており、良好な結果が見られた。 ○多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる問題では、全国平均を10.3ポイント上回った。	・図形の定義や定理(性質)などについては、図を活用し、視覚的に説明する活動などを通して、確実に理解できるようにする。また、図形の性質を考察する場面では、証明のゴールを明確にしたり、ステップごとに根拠を示したりする活動を導入して、論理的思考力を養うようにしていく。
C 関数	正答率は、市平均を3.9ポイント、全国平均を4.2ポイント上回った。 ○関数の分野の全ての問題で、市と全国平均を上回っており、良好な結果が見られた。 ○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題では、全国平均を6.7ポイント上回った。	・視覚的な手法を活用し、グラフや表による説明を通して関数の性質と変化を明確にしていく。また、日常的な事象を例として取り入れるなかで、興味・関心を引き立てるとともに、関数の有用性と実践的価値を理解させる。さらに式の変形や計算の正確性を育みながら、論理的思考力を養うことで、応用問題に対応できる力を段階的に育ていく。
D データの活用	正答率は、市平均を0.9ポイント、全国平均を3.9ポイント上回った。 ○不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題では、全国平均を13.2ポイント上回った。 ●相対度数の意味を理解しているかどうかをみる問題では、全国平均を2.4ポイント下回った。	・相対度数の概念をしっかりと理解させるとともに、分子と分母の意味や、分母が「全データ数」であることを意識させる。また、抽象的な数値よりも、生徒が身近に感じるテーマを用いて割合を求めさせるなど、生活に関連するデータを活用していく。 ・グラフや図を使い、相対度数を視覚的に表現する方法を取り入れることで、概念を分かりやすくするとともに、棒グラフや円グラフで割合を示す練習なども取り入れていく。

宇都宮市立陽北中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

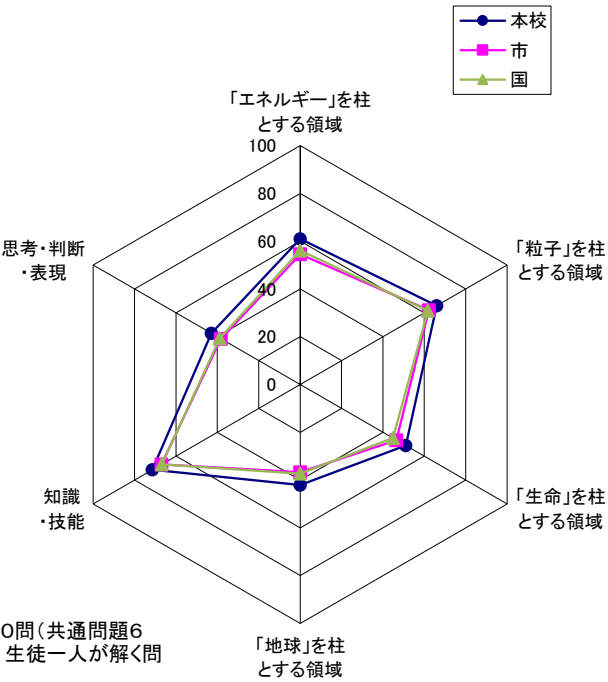
【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	61.0	54.5	56.1
	「粒子」を柱とする領域	66.0	62.2	61.7
	「生命」を柱とする領域	51.1	46.5	44.8
	「地球」を柱とする領域	42.1	36.7	37.3
観点	知識・技能	71.4	67.0	66.8
	思考・判断・表現	42.9	38.3	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			

※中学理科の調査は、CBTで実施されている。

※CBTの調査では、生徒全員に同じ問題が出題されるのではなく、公開問題10問(共通問題6問、実施日により指定された問題4問)と、非公開問題が16問出題されている。生徒一人が解く問題数は26問である。

※公開問題22問(共通問題6問、実施日により異なる問題16問)の調査結果を集計した値である。



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	正答率は市平均を6.5ポイント、全国平均を4.9ポイント上回っている。 ○電気回路と熱量に関する問題では、全国平均を11.7ポイント上回っている。 ○自作の楽器を用いて音について科学的に探究する問題では、全国平均を7.6ポイント上回っている。 ○教室に設置している湿度計を科学的に探究する問題では、全国平均を3.2ポイント上回っている。	○身回りの電気製品の疑問を話し合い、班で簡単な実験を計画し、答えを探す体験を通じて、科学的思考力を養う。 ・ドライヤーの熱や風、リモコンの光など、身近な製品のエネルギー変換を観察しながら、光、電気、熱、音の関係を学ぶ。 ・実験レポートに「何がわかったか」「なぜそう考えたか」を短く書き、写真やイラストを加えて視覚的に表現する力を育てる。
「粒子」を柱とする領域	正答率は市平均を3.8ポイント、全国平均を4.3ポイント上回っている。 ○化学変化を原子や分子のモデルで表す問題では、全国平均を9.0ポイント上回っている。 ○加熱することで分解が起きるものを選択肢から解答する問題では、全国平均を17.3ポイント上回っている。 ●気体の性質から、火災における適切な避難行動を選択する問題では、全国平均を4.1ポイント下回っている。	・調理や化石燃料など、身近な化学変化を理科以外の教科と関連付け、より深い学びを促す。 ・身の回りの気体の性質を調べ、その知識を活用した新しい道具や現象を考えさせることで、思考力を育む。 ・火災時の避難行動を、煙(気体)の上昇など簡単な実験と結びつけ、なぜそうすべきかICT機器を使いながら理解させる。
「生命」を柱とする領域	正答率は市平均を4.6ポイント、全国平均を6.3ポイント上回っている。 ○スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題において、全国平均を3.1ポイント上回っている。 ○植物の茎の横断面や根の構造について、適切に表現できているかをみる問題において、全国平均を5.3ポイント上回っている。 ○物質を体内に取り入れるための体の構造に関する問題において、全国平均を17.3ポイント上回っている。	・様々な生物の体が、それぞれの生息環境に適応している理由を調べ、生物の多様性と進化について考える。 ・体の構造の知識を健康や病気の予防にどう活かすか考える。生物と人間社会の関わりについて議論する。 ・観察結果や考察を、論理的な文章で表現する練習を加え、科学的な根拠に基づき、自分の考えを明確に記述する。
「地球」を柱とする領域	正答率は市平均を5.4ポイント、全国平均を4.8ポイント上回っている。 ○大地の変化について地層を手掛かりに探究する問題において、全国平均を6.8ポイント上回っている。 ○地層のボーリング調査からわかることをモデルで示す問題では、全国平均を3.0ポイント上回っている。 ○気圧において科学的に探究する問題では、全国平均を5.2ポイント上回っている。	・スケッチした身近な地層を火山や地震と結びつけて考察し、複雑な事象を多角的に探究する力を育てる。 ・地層と化石、気圧と天気予報など、地球科学を他分野と関連付けて学ぶことで、視野を広げる。 ・ICTを活用し、ボーリング調査から過去の地球環境を推測する。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、肯定的回答は83%で、県平均より5ポイント、全国平均より3.2ポイント下回った。学習に対する意欲の高さや良好な生活習慣の様子からは意外な結果であった。生徒のよいところを認めたり、生徒間や教師との良好な人間関係を構築したりして、自己肯定感を高めるとともに、生徒による主体的な活動を増やして、自分のよさに気付かせたい。

○「友達関係に満足していますか」の質問では、肯定的回答は92.9%で、県平均より10ポイント、全国平均より1.5ポイント上回っている。落ち着いた雰囲気の中での学校生活、学校行事や学級活動の充実、いじめゼロ強調月間や教育相談、「宮っ子ダイアリー」等の積み重ねの成果と考えられる。

○「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の質問では、肯定的回答は84.3%で、県平均より5.4ポイント、全国平均より6.8ポイント上回っている。知的好奇心が高く、読書が好きで、ICTを活用する能力も高いことに起因していると考えられる。

○「読書は好きですか」の質問では、肯定的回答は73.9%で、県平均より9ポイント、全国平均より12.3ポイント上回っている。毎日の「朝の読書の時間」の定着、図書委員会の活動や図書館の充実などに起因するものと考えられる。

○「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができますか」との質問では、肯定的回答が92.2%で、県平均より7.4ポイント、全国平均より8.6ポイント上回っている。「情報を整理することができますか」の質問では、肯定的回答が78.4%で、県平均より11.8ポイント、全国平均より15.1ポイント上回っている。「学校のプレゼンテーションを作成することができますか」の質問では、肯定的回答が89.5%で、県平均より9.1ポイント、全国平均より12.9ポイント上回っている。各教科や総合的な学習の時間等での学習を通じて、ICT機器による文書作成、情報の整理、プレゼンテーション等の技能身に付けたり活用したりしている成果と考えられる。

●「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか」の質問では、肯定的回答が71.9%で、県平均より6.3ポイント、全国平均より2.9ポイント下回った。学んだことを働かせてどう使うか、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかといった、本来の目的にせまることができるように授業を工夫していかなければならない。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の質問では、肯定的回答が93.4%で、県平均より7.9ポイント、全国平均より13.9ポイント上回った。社会体験学習のまとめとして、土曜授業（公開授業）で保護者の前で発表した際にも、canvaを駆使してスライドを作成したり、口頭での発表内容をよくまとめたりしていた。今年度の修学旅行のまとめにも昨年度の学びが活かされている。

○「国語の勉強は好きですか」の質問では、肯定的回答が83.6%で、県平均より24.5ポイント、全国平均より25.7ポイント上回っている。「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問では、肯定的回答が94.1%で、県平均より15.2ポイント、全国平均より17.1ポイント上回っている。また、「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか」の質問では、肯定的回答が90.2%で、県平均より14.4ポイント、全国平均より17.3ポイント上回っている。1年生の時から同じ教科担任が担当しているが、生徒との良好な信頼関係のもと、確実に学力を身に付けていることが分かる。

○「数学の授業の内容はよく分かりますか」の質問では、肯定的回答が83.0%で、県平均より12ポイント、全国平均より12.7ポイント上回っている。また、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問では、肯定的回答が86.3%で、県平均より8ポイント、全国平均より11.1ポイント上回っている。教科担任による丁寧な学習指導と家庭学習の充実による成果が現れていると推察される。

●「理科の勉強は得意ですか」の質問では、肯定的回答が41.2%で、県平均より16.1ポイント、全国平均より9.5ポイント下回った。また、「理科の授業の内容はよく分かりますか」の質問では、肯定的回答が61.5%で、県平均より14.9ポイント、全国平均より9.9ポイント下回った。その一方で、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問では、肯定的回答が71.2%で、県平均より4.8ポイント、全国平均より7.8ポイント上回っている。教科担任が授業改善を行って分かりやすい授業となるよう工夫するとともに、学んだことを活用する場面を設定するなどして、自信を付けさせることが肝要である。

宇都宮市立陽北中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
--------	-----------	------------

学習の基盤となる態度や家庭学習(自主学習)習慣の育成と、対話的で深い学びを通じた思考・判断・表現力の向上	○授業と家庭学習のつながりを深め、学習意欲と成果を向上させる。 ・授業内容の確認と定着のための練習を家庭学習で行う。 ・予習型の家庭学習を取り入れ、授業への理解を深まり易くする。 ・目標(めあて)の設定と、自分がどれだけ進歩したのか振り返る時間を作ることで、自己肯定感を高め、モチベーションを持続させる。 ○生徒の「主体的・対話的で深い学び」を促進し、思考力や表現力の向上を支援する。 ・探究学習の導入と対話の場を意識的に設定する。 ・「問い」を重視する授業デザイン ・ICTを活用した双方向の学び	・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」に「2時間以上」と回答した生徒の割合は42.5%で県平均を13.0ポイント、全国平均を11.7ポイント上回っている。 ・「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」に「2時間以上」と回答した生徒の割合は59.5%で県平均を21.3ポイント、全国平均を27.0ポイント上回っている。 ・「学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」に回答した生徒の肯定的割合は88.2%で県平均を0.7ポイント、全国平均を3.5ポイント上回っている。
---	--	---

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」について「ほぼ毎日(1日に、複数の授業で活用」と回答した生徒の割合は16.3%で、県平均を3.7ポイント、全国平均を13.2ポイント下回っている。 ・「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか」についての生徒の肯定的割合は71.9%で、県平均を6.3ポイント、全国平均を2.9ポイント下回っている。	・各教科の指導におけるICTの効果的な活用 ・学びを現実と結びつけるため、日常生活や生徒自身の興味を取り入れるとともに、プロジェクト型学習を通じて実践的な体験を積み重ねることや、振り返りの時間を設け、学びが着実に深まるよう取り組んでいく。	・すべての生徒、教職員が端末を文具の一つとして、授業の内外で日常的に活用することから始め、授業における共同学習ソフトを活用したり、探究的な学びを促進したりするなど、段階的に活用を進める。 ・教職員のスキルアップとして、他の先生とも連携しながらICTの活用に関する研修を開催し、より多くの先生が効果的な方法を習得できるよう取り組む。 ・共同学習支援ツールの、共同閲覧や共同編集等の機能を活用し、生徒の多様な考えの比較・検討や学び合いによる「協働的な学び」の充実を図る。 ・授業内容を生活や学校行事にリンクさせ日常とつなげていくとともに、学んだことを別の場面で試すなどの活動を取り入れるようにする。 ・「もし～なら」「だから～」のフレーズを用いるなどして、学びが実生活や次の授業へと広がるよう努めていく。